



お年寄りよ 旅に出よう

手助け多彩 NPO設立

介護福祉士やホームヘルパー2級、看護師の資格を持つ旅行ガイド「トラベルヘルパー」が活躍の場を広げている。日帰りのお出かけから、海外旅行までサポートする形は様々。旅仲間を亡くした高齢者、体が不自由な親と一緒に旅をしたい年配からの利用申し込みが多いという。

(宮嶋加菜子)

花見客でにぎわう東京都大田区の大倉英二さん(74)は田区の大倉川台公園。車いす



に乗った大倉英二さん(74)は「こんなに白い桜の花も珍しいね」と言った。話に耳を傾けながら慎重に車いすを押す広中美子さん(57)は旅行会社「エス・ピー・アイ」(東京都渋谷区)に所属する「トラベルヘルパー」だ。旅行添乗員とホームヘルパー2級の資格を持っている。

この日は午前10時半から車

いすを押し、3駅離れた公園を目指して出発。電車に乗り、坂道を上り、約1時間かけて高台の公園にやって来た。

広中さんは事前に経路や絶景ポイントを確認し、飲んでいる菓の種類と時間もメモ。準備万端整えて、約4時間の花見旅行を無事終えた。

桜を満喫した大倉さんは「外の空気を吸うと生き返る」とにっこりした。1年半前に脳梗塞で倒れ、左半身にまひが残った。今は大田区にある介護付き有料老人ホームで暮らしている。もともと旅が大好きで、1年前に「トラベルヘルパー」を知り、今月2回ほど利用している。

「元気がなかったらここに行くぞ」という目標ができてリハビリも頑張れる。お金では買えない生きがいがあった」という。料金は半日コースで約1万6千円。いつかパラオを旅するのが夢だ。

トラベルヘルパーは、旅先での入浴や排泄、着替えや食

事の介助を行う。車いす利用者の海外旅行では、空港までのタクシー手配、機内での介助、観光先の受け入れ状況の確認など様々な仕事をす

る。エス・ピー・アイに申し込み、車いすで旅行する場合は、旅費のほか海外だと1日2万5千〜3万円、国内だと2万〜2万5千円かかる。

社長の篠塚恭一さん(47)は旅行会社で添乗員として働いていたとき、「他の人に迷惑をかける」と好きな旅をあきらめる高齢の客を多く見てきた。91年に独立し、95年から社内で人材養成を始めたという。当時20人だった所属のトラベルヘルパーは、現在全国に約500人に増えた。

「少しの手助けで、楽しい旅行ができるようになる。旅は最高のリハビリです」と篠塚さん。06年にはNPO法人・日本トラベルヘルパー協会を設立。一般向けの養成講座やワークショップを開き、すそ野を広げようとしている。

74歳「生きがいできた」

トラベルヘルパーの広中美子さん(右)と一緒に満開の桜を楽しむ大倉英二さん
|| 東京都大田区、宮嶋写す